

岩手・岩泉

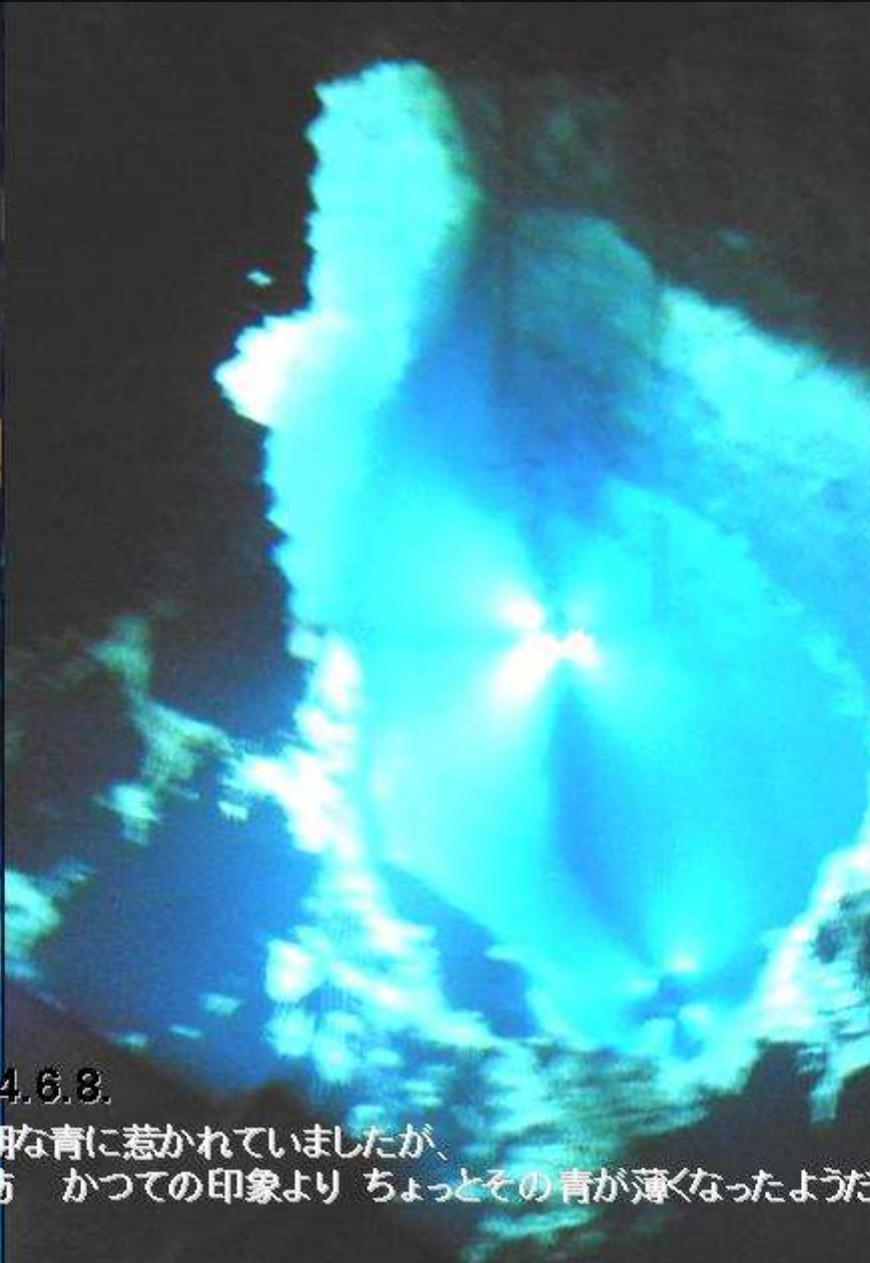
Iwaizumi town, Iwate pref.

龍泉洞 Ryusendo

国指定天然記念物・日本三大鍾乳洞

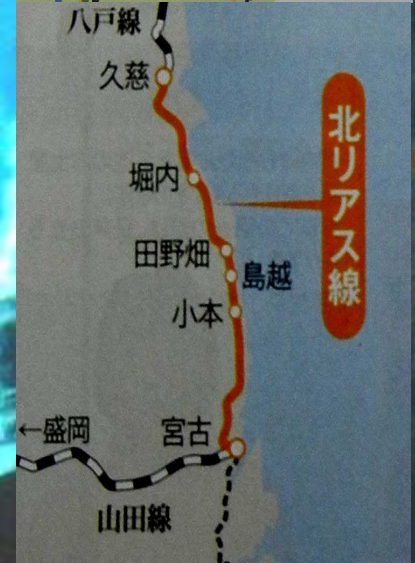
神 世界を探検しよう。

3. 三陸鉄道に乗って 20数年前訪れた龍泉洞 & 普代・黒崎を訪ねる
3.2. 20数年前訪れた岩泉町の龍泉洞 透明なブルーに出会いたくて



龍泉洞 2014.6.8.

そのどこまでも透明な青に惹かれていましたが、
20数年ぶりの再訪 かつての印象より ちょっとその青が薄くなったようだ



盛岡

北三陸沿岸 岩泉 龍泉洞の位置 2014.4.14.

北三陸の龍泉洞のブルー あの透明なブルーにもう一度会いたくて 三陸鉄道小本駅から小本川沿いを遡って岩泉へ。かつては 山田線の茂市駅(宮古市)から岩泉までの岩泉線が走っていましたが、今は廃線になって 鉄道はなく、バスが茂市駅や三陸鉄道小本駅をむすぶ。今 街はどうなっているのだろうか…… また、たたら遺跡の話をきけるかも???

● 龍泉洞

岩泉

普代駅 ●

田野畑駅 ●

島越駅 ●

小本駅 ●

接待駅 ●

田老駅 ●

宮古駅 ●

Image Landsat
Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO

Google



小本駅はちょうど駅舎を含めた観光センターが建て替え工事で、駅の施設は全くなく、無人駅になっていて、龍泉洞へのアクセスなど全くきけず。駅から見たバスの駐車場に飛び込んで、運転手さんに色々教えてもらう。

小雨の降る中 親切にもバスの中に入れてもらって、龍泉洞往復のアクセスと三陸鉄道普代への乗り継ぎを教えてもらう。やっぱり3時過ぎこの運転手さんのバスまで、龍泉洞行のバスはなく、タクシーで20分ほど。またもタクシーの世話になることにして タクシーを呼んでもらう。



タクシーに乗って 小本川沿いを遡って、約20分ほどで岩泉の街並みを抜けたところが、龍泉洞。
でも20数年前 バスに乗った記憶はあるのですが、道中の景色にはほとんど記憶なし。
龍泉洞の清らかな清流とどこまでも澄み切った透明のブルーの記憶しかなし。

それはそうと「岩泉町のトリフ栽培どうなりました???'と聞くと、タクシーの運転手さんが笑い出した。
「よう そんな古い話知ってるねえ もうずいぶん前に終わったよ」と。私が訪れた20数年前 岩泉
線が走り、岩泉駅前にはぎわい、街はトリフ栽培で沸いていました。
今は岩泉線も廃止され、また、トリフでの町興し 知る人も少ないと。でも 龍泉洞はいつも通りに基
割っているとの由 うれしい限り。

小本川に沿って 山間をどんどん遡ってゆく。

藩政時代(江戸～明治) この岩泉でも、砂鉄を木炭で熔かし鉄を造るたたら製鉄が盛んに行われ、それに関連して炭作りや陰しい山道の運搬に役立つ牛の飼育が盛んだったという。
江戸時代中期の江川鉄山他 町内には十数ヶ所の製鉄関連遺跡が確認されており、
岩泉町は砂鉄と製鉄に必要な木炭が豊富にあり、製鉄が盛んな場所だったことがわかる。





小本駅からタクシーで約20分ほどで、岩泉の小さな街並を眺めながら、さらに川筋を遡ると緑の山に包まれた川岸に建物が見え、竜泉洞入口に到着



3. 三陸鉄道に乗って 20数年前訪れた龍泉洞 & 普代・黒崎を訪ねる 32. 20数年前訪れた岩泉町の龍泉洞 透明なブルーに出会いたくて



14:40 龍泉洞のバス乗り場の入り口で 4:15待ち合わせの約束をして 龍泉洞へ向かう



竜泉洞への入口 橋を渡って奥へ行ったところが竜泉洞である



竜泉洞の入口へ渡る橋の欄干には「龍」のモニュメントがっていました



龍泉洞入洞口 2014.8.8.



3. 三陸鉄道に乗って 20数年前訪れた龍泉洞 & 普代・黒崎を訪ねる

32. 20数年前訪れた岩泉町の龍泉洞 透明なブルーに出会いたくて



3. 三陸鉄道に乗って 20数年前訪れた龍泉洞 & 普代・黒崎を訪ねる 32. 20数年前訪れた岩泉町の龍泉洞 透明なブルーに出会いたくて



3. 三陸鉄道に乗って 20数年前訪れた龍泉洞 & 普代・黒崎を訪ねる

32. 20数年前訪れた岩泉町の龍泉洞 透明なブルーに出会いたくて

龍泉洞のあらまし

The Outline of Ryusendo Cave

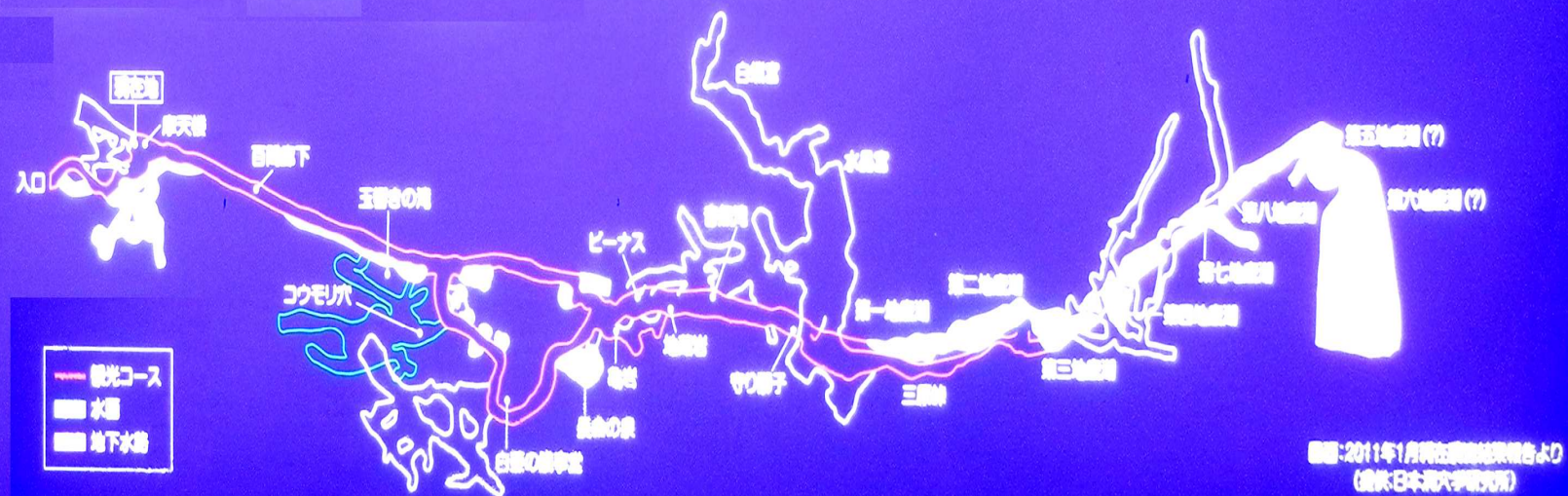
龍泉洞は、宇雲霧山の東麓に開口し、洞口の標高は160mで、宇雲霧山の尾根の方向に伸びる主洞と、それに交差する多数の支洞からできています。


龍泉洞は1938年（昭和13年）12月14日に「岩泉洞窟およびコウモリ」として国の天然記念物に指定され、山口県秋芳洞、高知県龍河洞とともに、日本「三大鍾乳洞」として有名です。

洞口付近から平均毎秒1.5トンも湧き出す透明な水は、1985年（昭和60年）7月22日、日本名水百選に選ばれました。

また、龍泉洞は、2007年（平成19年）5月に「日本の地質百選」に選定されました。

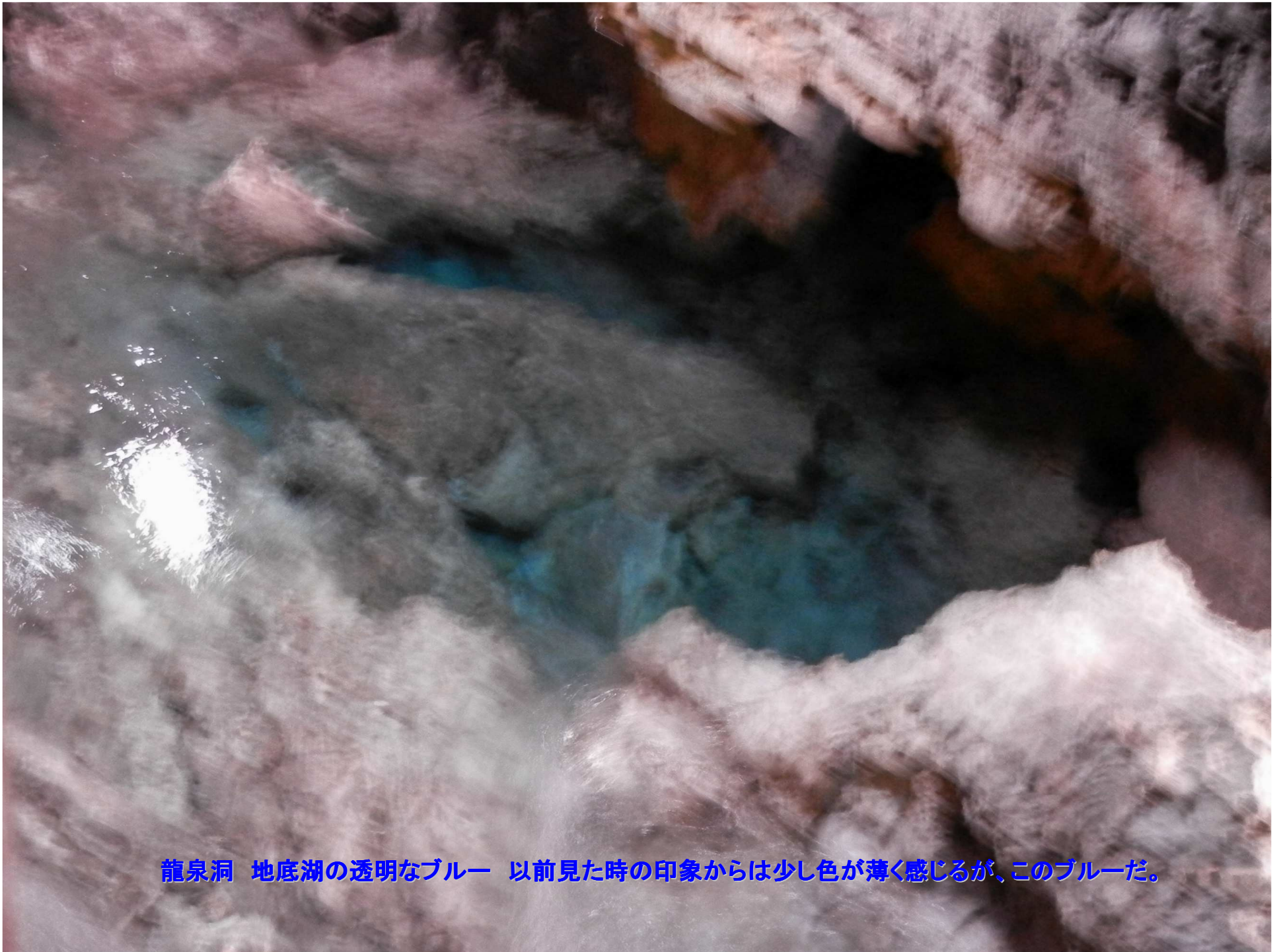
龍泉洞内の調査は現在も進められていて、2010年現在での総延長は3,500mを越えています。



A photograph of a cave interior. A staircase leads upwards from the foreground towards a bright, glowing blue light source at the top. The light creates a strong blue glow that illuminates the surrounding rock walls and ceiling. The overall atmosphere is mysterious and ethereal.

地底湖のあのブルー色はよく覚えていますが、他はほとんど覚えていない。

あの青を見たくてどんどん地底へ降りてゆく



龍泉洞 地底湖の透明なブルー 以前見た時の印象からは少し色が薄く感じるが、このブルーだ。



龍泉洞 地底湖の透明なブルー

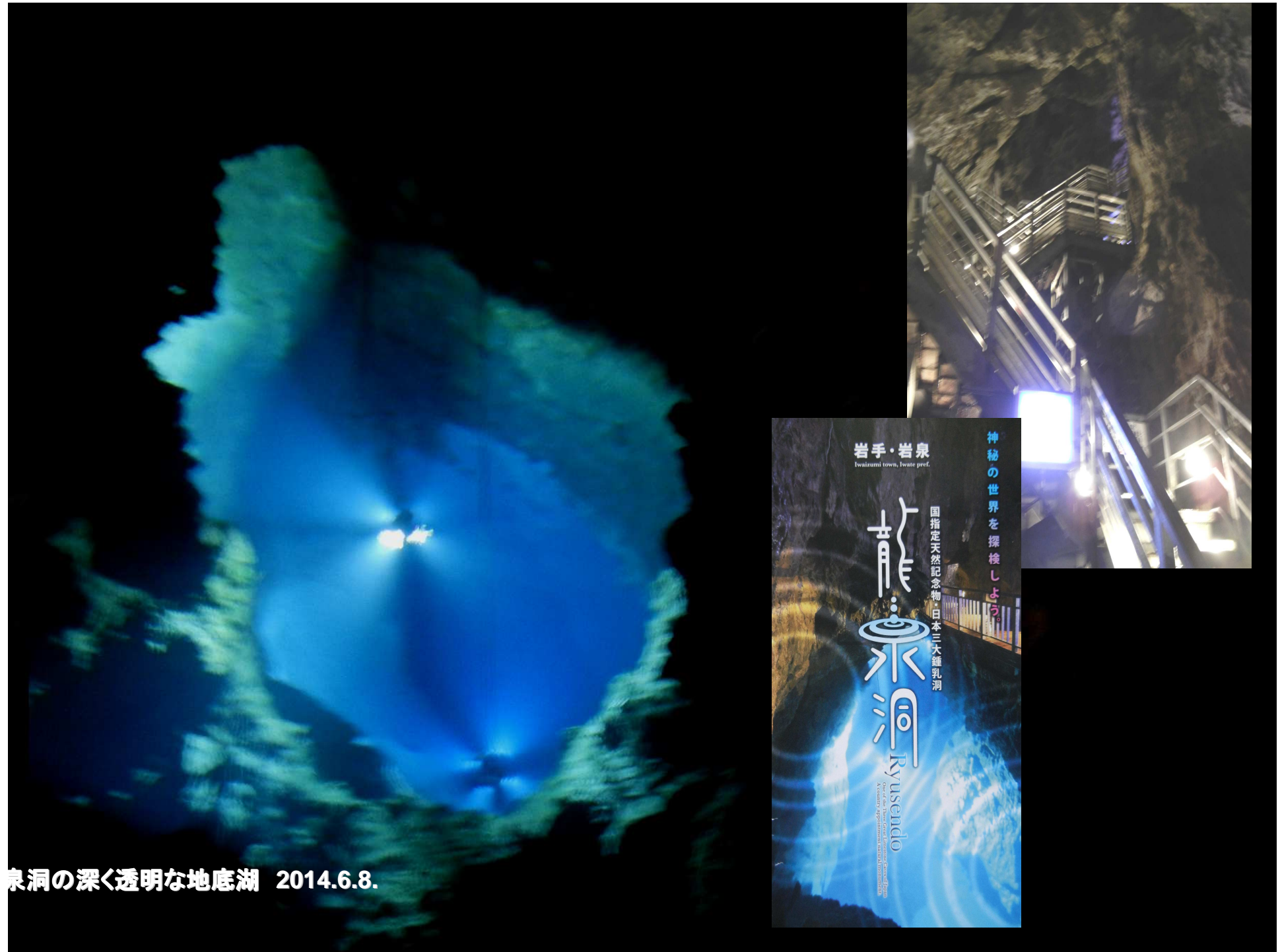


龍泉洞 地底湖の透明なブルー





龍泉洞 2014.6.8.



泉洞の深く透明な地底湖 2014.6.8.



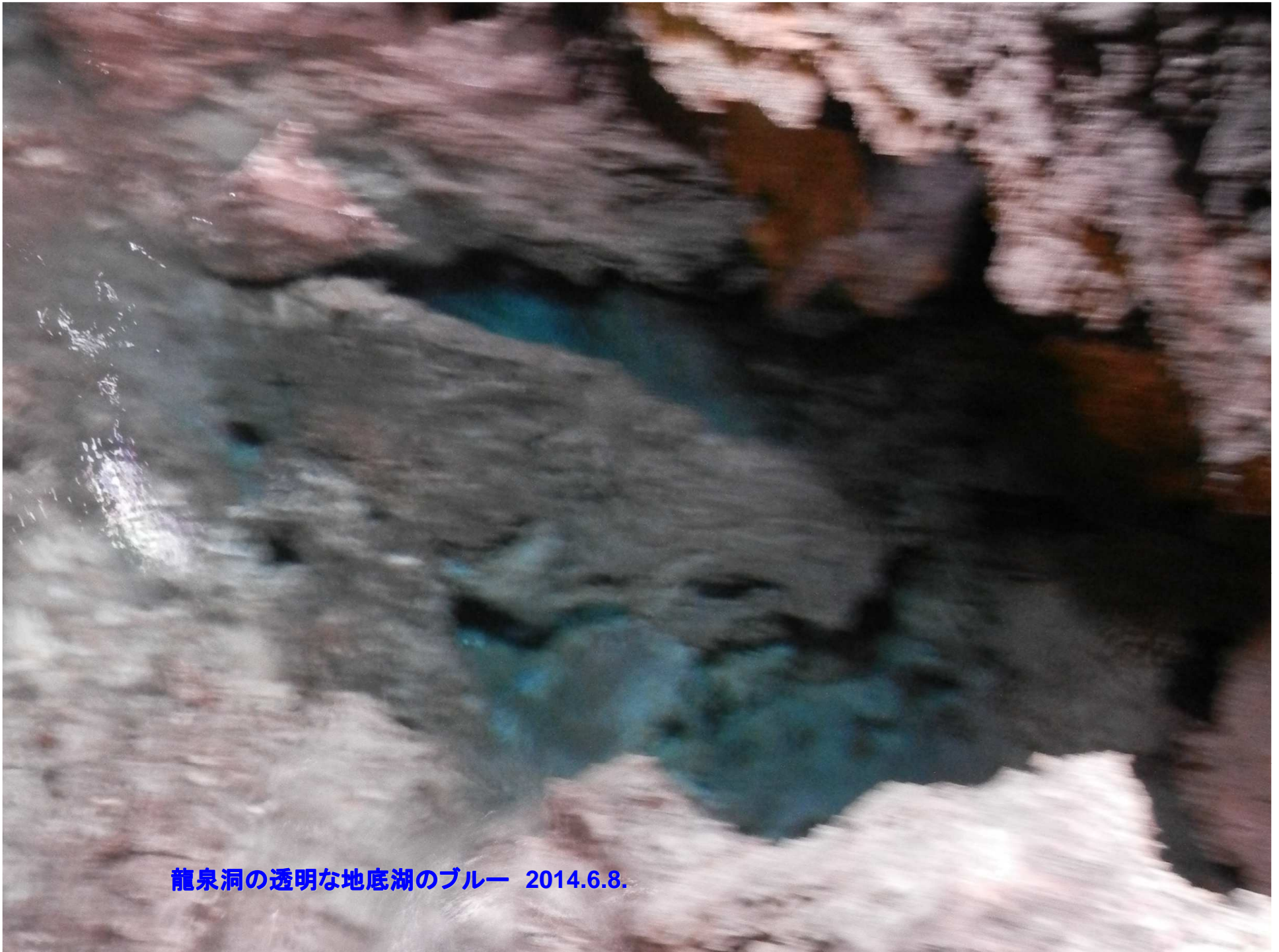
龍泉洞の深く透明な地底湖 2014.6.8.



龍泉洞の深く透明な地底湖 2014.6.8.



龍泉洞の深く透明な地底湖 2014.6.8.



龍泉洞の透明な地底湖のブルー 2014.6.8.



龍泉洞の透明な地底湖のブルー 2014.6.8.



3. 三陸鉄道に乗って 20数年前訪れた龍泉洞 & 昔代・黒崎を訪ねる 32. 20数年前訪れた岩泉町の龍泉洞 透明なブルーに出会いたくて



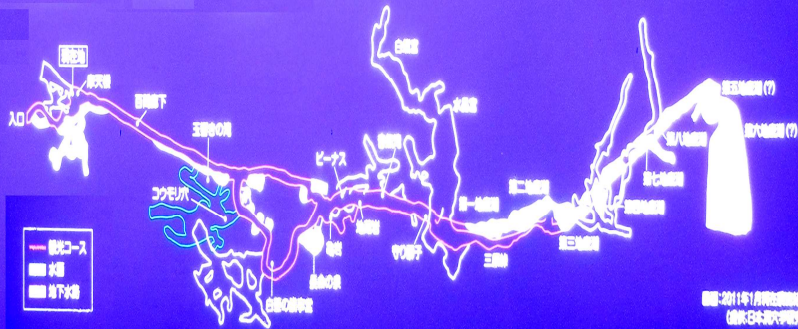
3. 三陸鉄道に乗って 20数年前訪れた龍泉洞 & 昔代・黒崎を訪ねる 32. 20数年前訪れた岩泉町の龍泉洞 透明なブルーに出会いたくて



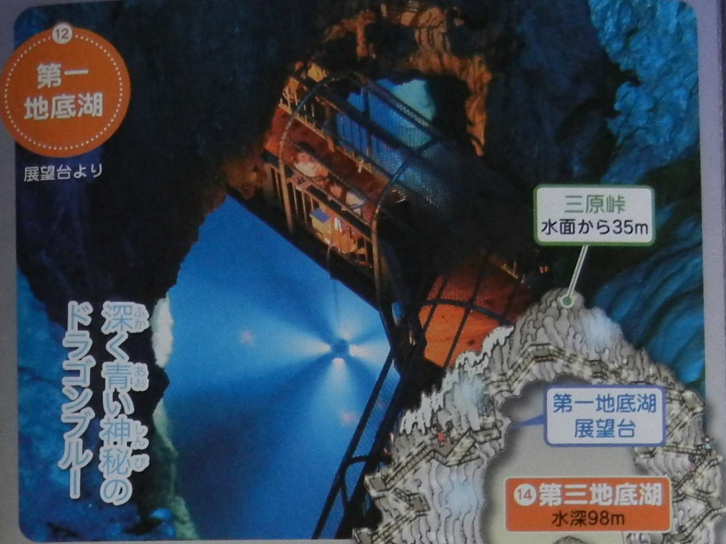
たっぷり龍泉洞内を見学。秋芳洞もよく知っているが、このブルーは見られない。昔のイメージからは 少し色が薄くなっているように感じたが、龍泉洞のブルーに出会えてよかった。

前もそうだったのでしようが、ちょっとカラフルな人工照明がきつく、若い人には受けるのでしようが、自然の景観が台無しに感無きにもあらず。

16:25 また降り出した雨の中 予約したタクシーでまた小本駅へ戻る。



龍泉洞は、宇釜山山の東麓に開口し、洞口の標高は160mで、宇釜山山の尾根の方向に伸びる主洞と、それに交差する多数の支洞からできています。龍泉洞は1938年(昭和13年)12月14日に「岩泉洞窟およびゴウモリ」として国の天然記念物に指定され、山口県萩市洞、高知県龍河洞とともに、日本「三大鍾乳洞」として有名です。洞口付近から平均毎秒1.5トンも湧き出す透明な水は、1985年(昭和60年)7月22日、日本名水百選に選ばれました。また、龍泉洞は、2007年(平成19年)5月に「日本の地質百選」に選定されました。龍泉洞内の調査は現在も進められていて、2010年現在での総延長は3,500mを越えています。





3. 三陸鉄道に乗って 20数年前訪れた龍泉洞 & 昔代・黒崎を訪ねる

32. 20数年前訪れた岩泉町の龍泉洞 透明なブルーに出会いたくて

【参考】 岩泉の鉄

藩政時代(江戸～明治) この岩泉でも、砂鉄を木炭で熔かし鉄を造るたたら製鉄が盛んに行われ、それに関連して炭作りや険しい山道の運搬に役立つ牛の飼育が盛んだったという。
江戸時代中期の江川鉄山他 町内には十数ヶ所の製鉄関連遺跡が確認されており、岩泉町は砂鉄と製鉄に必要な木炭が豊富にあり、製鉄が盛んな場所だったことがわかる。



三陸沿岸の Iron Road

【参考】北上高地の製鉄

http://www.bunka.pref.iwate.jp/rekishi/kouzan/kouzan01_02.html

◆ 製鉄の始まり

北上高地の製鉄業の歴史は古いようですが、中世までの様子はよくわかっていません。江戸時代に入ると、仙台藩の磐井郡大籠(現在の藤沢町)や折壁や津谷川ともに一関市室根町)、気仙郡の世田米(住田町)などで製鉄が始まったといわれます。

言い伝えでは永禄年間(1558-1570)に土佐と対馬という2人が備中(岡山県)の千松大八郎・小六郎兄弟に弟子入りし、その技術を学んで大籠で製鉄を始めたといえます。

慶長3年(1598)伊達政宗の岩出山築城に際し鉄1,600貫目、同5年(1600)の仙台築城に鉄2万貫目、さらに同7年(1602)には5万貫目を上納したという記録が残っています。

大籠に隣接する馬籠(宮城県本吉町)には、佐藤十郎左衛門という人が中国地方で製鉄を学び、慶長10年(1605)にこの地で製鉄を始めたという言い伝えがあります。

盛岡藩ではこのころ、田野畑村や普代村、山形村(現 久慈市山形町)や大野村(現 洋野町)などで製鉄業が成立し、九戸郡一帯は製鉄の中心地として栄えたと言われていました。

17世紀には近隣諸藩に鉄の移出を始め、18世紀中期に中国地方から最新技術が取り入れられて生産量が増加すると、東廻り海運を利用して仙台藩、相馬藩(福島県)、水戸藩、江戸などの遠隔地にも移出されるようになりました。

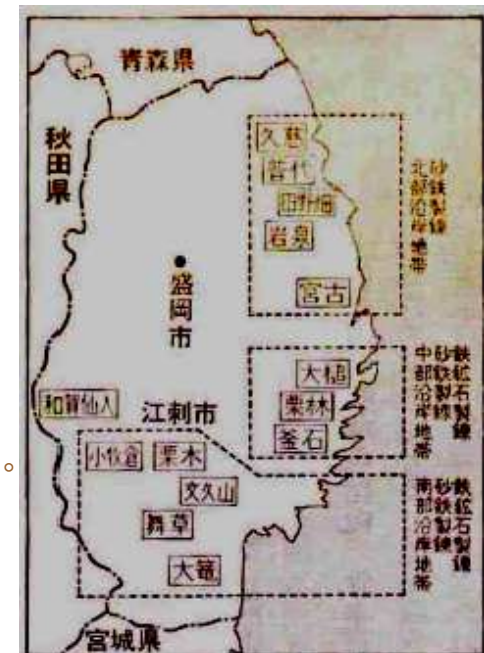
18世紀後半以降になると、輸送距離が短く運賃の安い南部鉄は備中铁との競争に打ち勝ち、東日本の太平洋岸の市場をほぼ独占するまでに成長しました。

仙台藩の製鉄が主に農業との兼業であったのに対し、盛岡・八戸藩の鉄産業は地域の豪農や豪商が資本を投下して行う専業従事者による通年操業で、燃料として大量に使う木炭が豊富だったこともその一因となっています。

◆ 南部鉄の名声を高めた諸鉄山

盛岡藩では18世紀後半、岩泉の中村屋が経営にたずさわるところから製鉄業が大発展しました。寛政年間(1789-1800)に開発された割沢・室場・板沢・翁沢・田名部の各鉄山は「野田5カ鉄山」と呼ばれ、秋田藩や弘前藩はもちろん、仙台藩や水戸藩にも移出され、南部鉄の名声を高めました。また、文化年間(1804-1817)には問屋も設置されています。内陸への運搬には牛方が活躍し、新しい街道も整備され、帰りの荷では米や雑穀などが運ばれ、山村経済の改善にも一役買いました。

八戸藩では享和から文政年間(1801-1829)に飛騨(ひだ・岐阜県)の浜屋茂八郎が製鉄業を営み、生産量が増加しています。その後、八戸藩は鉄山を藩営とし、領内の豪商を支配人に任命して経営を行っています。これより先、藩内には「大野6カ鉄山」と呼ばれる鉄山が開発されています。この中の一つ・玉川鉄山(軽米町・県指定史跡)は、天保5年(1834)軽米の豪商・淵沢圓右衛門が経営を命ぜられたことが知られています



江戸時代中期の岩泉の鉄山跡 江川鉄山

江川鉄山跡は江戸時代中頃に岩泉町安宅で営まれた製鉄遺跡です。

平成5・6年に県道久慈・岩泉線の改修工事により鉄山跡であったことがわかり、発掘調査が行われましたが、その中で、「製鉄炉が2基」「掘立柱建物跡」などが検出され、陶磁器やキセルなどが出土しました。特に製鉄炉は、小舟構造といわれる除湿施設をもった製鉄炉であり、当時では高度な技術の製鉄炉です。

当時の鉄山では、主に「鉄の延べ棒」といわれる延鉄が造られ、それを南部藩に納めたり、鍛冶屋などで農具などの産業器具や鍋、釜などの調理器具の鉄製品が造られていました。現在はその面影は、ほとんど残っていません。

このほかにも町内には十数ヶ所の製鉄関連遺跡が確認されており、岩泉町は砂鉄と製鉄に必要な木炭が豊富にあり、製鉄が盛んな場所だったことがわかります。



江川鉄山跡

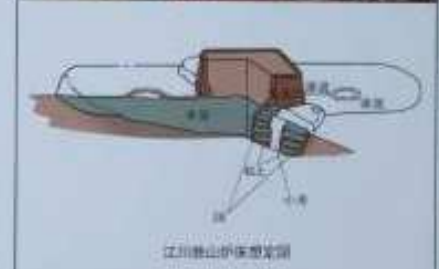
江川鉄山跡は江戸時代中頃(1740～1752年)に営まれた製鉄遺跡です。

平成5年に県道岩泉久慈線の改修工事によって遺跡の一部が消滅するため発掘調査がおこなわれました。その結果、製鉄炉が2基検出され、そのほかにも鍛冶炉、建物跡など製鉄に関連する諸施設が多数検出されました。また製鉄に従事した人々が使用した陶磁器やキセルなどの生活道具も出土しました。

当時の製鉄炉には、湿度が多いと炉内の温度が上がりにくいので、地面からの湿気を防ぐ目的で地下構造が作られていました。地上部分の粘土で作られた炉の本体は、できあがった鉄を取り出すために1回の操作のたびに壊すので、検出された製鉄炉に残っているのは地下構造の部分だけです。写真の製鉄炉の地下構造は木炭を詰める中央の部分と、その両側の石組みによって作られた、中で火を焚き除湿効果を高めるための「小舟」という空間からなっています。

このような地下構造の上に粘土で箱型の炉を作り、炉のなかに少しずつ砂鉄と燃料の木炭を交互に入れながら、炎を衰えさせないため、3日間休みなく箱ふいごで空気を送り続けることによって鉄を生産していました。

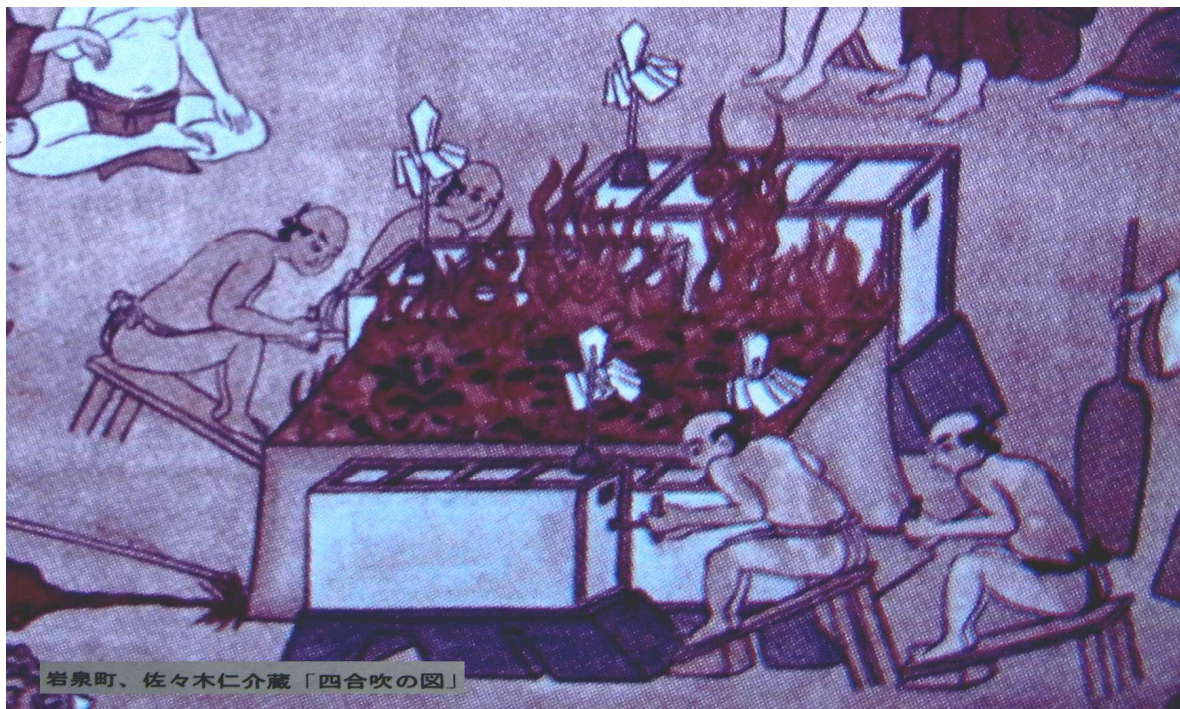
岩泉町教育委員会



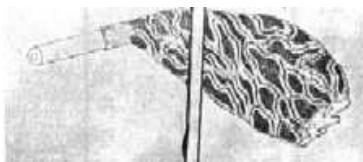
久慈 旧たたら館の入场券に使われた四合吹図 岩泉町 佐々木仁介氏蔵

4合吹とは箱鞴を4台使うたたら製鉄のことである
 たたら製鉄における鞴の変遷は画一でなく、中国山地でも石見、出雲では踏み鞴→吹差し鞴→天秤鞴となっていますが、伯耆、美作地域では、踏み鞴→天秤鞴となっています。
 一方、奥羽地方では踏み鞴、天秤鞴はあまり使われず、大型の吹差し鞴(大伝馬と呼ばれた)が主として使われ、幕末期に水車鞴に移行します。
 ちなみに、天秤鞴への移行が進んだ中国山地で水車が使われるようになるのは明治になってからです。

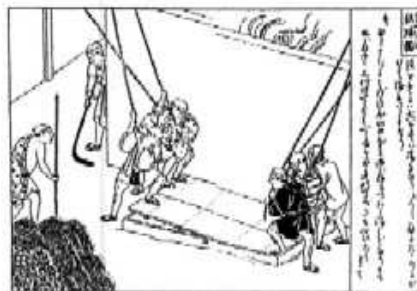
日立金属 たたらの歴史
 吹子・鞴より



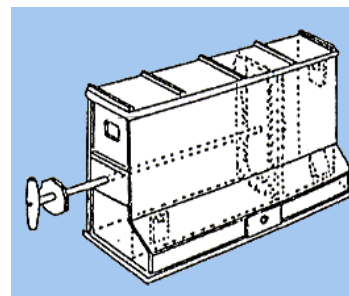
岩泉町、佐々木仁介蔵「四合吹の図」



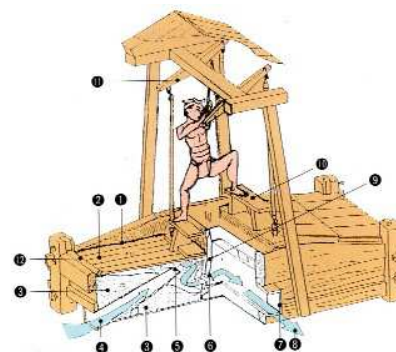
皮鞴「北蝦夷図説」より



踏み鞴「日本山海名物図会」より



吹き差し鞴



天秤鞴

岩手・岩泉 龍泉洞

三大鍾乳洞

ドラゴンブルーの誘い
—— 覗き無しの青の神秘 ——

50th ANNIVERSARY

東北新幹線「盛岡駅」より路線バスで約2時間20分
JR山田線経由 岩泉線「岩泉駅」より車で約5分

岩手・岩泉
Iwaizumi town, Iwate pref.

龍泉洞
Ryusendo

One of the Three Great Amusement Grottoes of Japan
A country appointment natural monument

神秘の世界を探検しよう。

国指定天然記念物・日本三大鍾乳洞